

平成 29 年度 事業報告



岡山理科大学附属中学校

優れた教育内容を提供し、学んでいる子どもたちの学力をさらに伸ばし、難関大学・難関高等学校入試を突破するだけでなく、社会に出て各分野で活躍できる人材を育成しました。



社会のグローバル化や産業構造の転換等により、個人個人に求められる能力が変化しつつあります。持続的に発展する社会に素早く

対応しながらも、自らの人生を切り開く力が必要です。そのために、次の項目に重点を置き教育しました。

○人格形成と学力育成

自己実現を叶えるためには、自らの頭で考えて判断し、行動できるようになる必要があります。そのために、知識・技能のみならず思考力・判断力や表現力、そして主体性・論理性という「真の学力の伸長」に取り組みました。また、日々の学校生活をとおして、基本的学習生活習慣を身につけさせました。

○国際理解と国際力向上

グローバル社会の到来を踏まえ、異文化を理解させ、国際力をつけさせることは、自己の表現力が付き、強い人間の養成につながると考え、英語力の強化に取り組みました。

○家庭との信頼関係

家庭と学校を繋ぐ生活記録ノートの活用により、生徒個々の家庭と密着に連携し学校内の様子等が伝わり、さらなる信頼が得られるように努めました。

○組織力の向上

安定した学年運営を行うために、教職員の意識改革を行い、組織力の強化に努めました。

○経営基盤の安定化

生徒確保に向けて学校組織全体で広報活動を強化しながら教育改革を進めました。生徒及び保護者が満足できる学校とするために、安定した経営基盤の構築に教職員が一丸となって努めました。

私たち教職員一同は、加計学園建学の理念の下、「立志三風」を掲げ、「生活三則」の指導に一丸となって取り組みました。

立志三風

- 一、慎独・去稚心の志風と守る（自主）
- 一、振気・勉学の良風と尚ぶ（努力）
- 一、忠恕・爽凜の美風と養う（友愛）

生活三則

- 一、場と清めましょう
- 一、時と守りましょう
- 一、礼と正しましょう

岡山理科大学附属中学校

校長 河村 定彦

教学の充実

■高校進学クラスの設置

2017年4月入学生より、中高一貫クラス（定員40名）と高校進学クラス（定員40名）の2種類のクラス編成になりました。中高一貫クラスは、難関国立大学への進学を目指します。高校進学クラスは、難関公立高校や難関私立高校への進学を目指します。

在籍している2・3年生は中高一貫コース（定員80名）で、難関大学への進学を目指すスーパー選抜クラスと、大学進学を目指す選抜クラスという2種類のクラス編成になっています。【1-1】

■共通の教育目標

少人数教育を生かして、生徒の学力の向上を進めました。また、基本的な生活習慣を確立して、集団の中で協力しながら生徒が主体的に活動できる力が身につくよう指導しました。そして、国際的な視野を持ちながら、自己の将来を見据えて生徒が進路選択できる力を身につけるよう指導しました。

さらに、岡山理科大学の協力を得ながら、大学教員による理科出前講義を実施（11回実施）することで、生徒の興味関心を高めました。【1-2】

■クラス別教育目標

・中高一貫クラス（第1学年）

基礎学力を充実させるところから始め、それを踏まえて国立大学や難関私立大学への進学に必要な学力の養成に努めました。また、国語の授業で「論理エンジン」のテキストを使用するなど、科学的・論理的な思考能力を高め、探求活動を推進させました。【1-3】

・高校進学クラス（第1学年）

高校への進学に必要な学力の養成に努めました。また、高校で求められる、自分の考えをわかりやすく説明できる力の養成にも努めました。【1-3】

・スーパー選抜クラス（第2・3学年）

自ら進んで学習する「自立学習」を身につけさせることで、国立大学への進学に必要な、バランスのとれた高い学力の養成に努めました。【1-3】

・選抜クラス（第2・3学年）

基礎学力の充実を図り、学ぶことの大切さや探求心を身につけさせて、大学進学に通用する能力の養成に努めました。【1-3】

■生徒による授業評価・授業者自身による授業評価

確かな学力を育むために、教員の授業改革が生徒にどのように受け止められているのかを知り、生徒の側から捉えた授業改善を進めるとともに、教員自らが自己評価を行いながら改善点を明らかにして、授業改善に生かしました。【2-1】

■授業計画書の作成

全科目の授業計画書を作成し、授業内容及び授業進度を生徒・保護者が理解できるようにし、円滑な学習活動を助けました。【2-2】

■自習教室の開設

生徒が自学自習の習慣を身につけるために、全学年を対象として、岡山理科大学と連携して、教員志望の大学生により通年で週3日、放課後に自習教室を開講しました。【3-1】

■論理力向上のための取り組み

国語授業の中で「論理エンジン」をテキストとして取り扱い、論理的な文構成の把握や文章作成の能力を養いました。また「論理文章能力検定」や「作文検定」を受検し、論理的思考力・表現力の定着度を図りました。【3-2】

■英会話

英会話を1～3年生の全クラスで実施し、自分から積極的にコミュニケーションがとれる姿勢を養いました。また、1・2年生から大学入学テストを見越し、4技能（聞く、話す、読む、書く）に対応したケンブリッジ大学英語検定のコースブック・英語教材を使用しました。

また、教員の授業力の強化するためにケンブリッジ大学英語検定機構認定西日本試験センター J P 1 7 6 と連携し、教員が英語教授知識認定テスト (T K T) の試験を受験するなどの取り組みを行いました。 【4-1】

■実用英語技能検定・漢字能力検定を全生徒に実施

- (1) 1 年在籍生徒の 9 割以上が 5 級以上の取得を目標とし指導しました。 【5-1】
- (2) 2 年在籍生徒の 8 割以上が 4 級以上の取得を目標とし指導しました。 【5-1】
- (3) 3 年在籍生徒の 6 割以上が 3 級以上の取得を目標とし指導しました。 【5-1】
- (4) 教員が生徒に対し、積極的に受検指導を行いました。 【5-1】

■TOEIC Bridge を 1・2 年生の生徒に実施

- (1) 2 年終了時には 1 8 0 満点中 1 2 0 点をスコアとすることを目標とし指導しました。 【5-1】
- (2) 1 5 0 点を超える生徒には T O E I C 受験を積極的に促しました。 【5-1】

生徒指導

■社会性規範育成への取組

社会的なモラルを踏まえて規範意識の啓蒙に努めました。学校独自としての規則だけではなく、アクティブラーニングやプレゼンテーションの指導を通じ、その場の状況に適した言動が取れるよう、常日頃から生徒へ指導しました。 【1-1】

■服装指導の実施

服装モットーは「凜とした爽やかさ」です。規定のものに限らず全てにおいて T P O に合わせ、清潔さを持った着こなしを指導しました。 【1-2】

■挨拶の励行

職場体験や発表などを通し、気持ちを込めて挨拶

ができるように、また、正しい言葉遣いができるように指導しました。この指導が面接での自己表現力に繋がるように努力しました。 【1-3】

■将来につながるリーダーの育成

体育祭、爽凜祭 (学習発表会)、球技大会、オープンスクールなど様々な学校行事は実行委員が主体性を持って運営しました。生徒が自主的に活動する中で企画力、実践力、思考力などを学び、個々の人間形成力を育成しました。 【2-1】

■情報教育

インターネットリテラシーを踏まえ、インターネットモラルの向上に努めました。その一環として、7 月 2 1 日に岡山県警察本部より講師を招き、「インターネットモラル教育」の講演を実施しました。

また、S N S 等個人情報の適切な扱いを指導しました。さらに、非行の実態と防止を学ぶことで、防犯意識を高めるために、1 2 月 1 2 日に岡山県警察本部より講師を招き、「非行防止教室」の講演を実施しました。

【3-1】

■家庭、地域社会との協力・連携強化

スクールバスの乗車指導、近隣の通学などに教員を配置し登下校指導や毎日の生活記録ノートの確認など生徒の学校生活や地域および家庭での生活などをサポートしていきました。 【4-1】

■教育相談室・保健室との連携

思春期である中学生期を心身とも健康に過ごせるように、生徒指導課と教育相談室及び保健室が綿密に連絡を取り、連携を強化しました。 【4-2】

教務関係

■授業・学習関係

- (1) 1 単位あたり年間 3 5 時間の授業時間を確保し

ました。夏期補習中の期間などに行事などで抜ける授業の補充授業期間を設けました。【1-1】

(2) 自習教室や平日補習を利用し、クラスの種別に関係なく、授業で理解できなかった部分の補いができる機会を設けました。【1-1】

(3) 休業期間中の補習は夏期に8日、冬期に3日、春期に4日実施しました。【1-1】

■カリキュラム・シラバス関係

(1) 2017年度からの高校進学クラスと中高一貫クラスの授業進度は、2年生まではほぼ同じにします。3年生では、高校進学クラスの授業の中で高校入試対策を実施し、中高一貫クラスの授業では一部高校の学習につなげるための学習を行います。【1-2】

(2) スーパー選抜クラスと選抜クラスについては、学習内容の理解度に応じた指導が可能なカリキュラムを作成しています。授業で復習が十分できない場合は、先取り学習に固執せず、学習内容の定着を第一とし指導しました。【1-2】

■考査関係

(1) 定期考査の成績処理終了後、各教科で各学年の学習進捗状況を把握し授業計画書を見直しました。【2-1】

(2) 成績不振と判定する基準点を設け、基準点に達していない生徒への指導を行いました。指導期間中の部活動は原則禁止としました。【2-1】

■校外模試

(1) 学習の定着度をはかり、全国との学力比較や弱点の把握などのために、校外模試を1・2年生は2回、3年生は5回受験しました。【2-2】

(2) 高校進学クラスでは、県内の高校入試対策の「チャレンジテスト」等各種模試を受験しました。【2-2】

■授業改善

これからの授業に必要とされるアクティブラーニングでの授業やICTを利用した授業方法、評価方法などの教職員研修会を定期的に行いました。さ

らに、「Classi」（ベネッセ）を利用して、教員間の情報共有を図りました。【3-1】

生徒募集

■塾との関係の強化

中学校入試における私塾の影響力は大きく、多様化する生徒・保護者の進路実現に向けて、各塾に対しタイムリーな学校情報を提供しました。

従来の塾訪問に加えて「通勤経路型塾訪問」を実施し、それぞれの塾に本校教職員の担当固定化を行いました。今年度も相当数の塾訪問を計画し、円滑に実施しました。

さらに、入試結果を踏まえた塾対象入試説明会を6月13日に実施しました。【1-1】

■情報提供

(1) オープンスクールや理科実験教室のアンケートによれば、参加動機の上位には常に「小学校からの案内」がランクインしています。小学校の自由研究系課題とリンクさせた企画内容を維持するとともに、印刷物等により案内を行いました。【1-2】

(2) オープンスクールや入試だけでなく、学校の情報をインターネット等でも、迅速に幅広く提供しました。さらに、直前には新聞等の告知を行い、生徒確保に努めました。【1-2】

(3) 受験生や保護者の関心が高い卒業後の進路について、卒業生の進路実績と本校での思い出を印刷物等で積極的に紹介しました。【1-2】

■広報企画

昨年度も実施した「県立中学校適性検査対策講座」等（2回実施）には多くの児童保護者の参加がありました。本校教職員の各入学試験分析力と入学試験作題力の向上を目指しました。

また、学校見学（個別オープンスクール）にて、児童保護者に対し平素の学校を見学する機会を設け、3年生で開講している学校設定科目「理科実験」の授業日を積極的に呼びかけました。

さらに、オープンスクールを1回追加し、岡山理科大学教員による科学の体験会と在校生が教員となり参加者の夏休みの宿題をお手伝いすることで、本校への関心の向上を図りました。

- ① 県立中学校適性検査早期対策講座 (5/13)
- ② 県立中学校適性検査対策講座等
(10/15・11/23)
- ③ オープンスクール (7/22・8/26・9/2)
(本校教職員による参加体験型授業)
- ④ 理科実験教室 (7/29)
(岡山理科大学教員による参加体験型授業)
- ⑤ トワイライト天体観測 (9/15)
- ⑥ ホームページ更新・・・見やすく、分かりやすい内容に改善、研究。
- ⑦ 学校新聞「V I V A理中」・・・年3回発行
- ⑧ 募集要項・・・9月上旬完成。

【1-3】

■入試制度

昨年度大きく変更した入試日程と科目数について、検証した結果、継続しました。

【2-1】

組織力の向上

■学校運営会議の強化

校長、教頭、課長で組織し開催しました。学校全体の運営方針に基づき、学校運営が円滑にかつ革新的に進むよう、学校業務の企画立案および連絡調整を強化しました。

【1-1】

■教科会議・学年団会議の強化・連携

各教科において、教科主任を中心とした教科会議を開催し、授業改善等の取組みを推進し、情報を共有することで、効率的な生徒の学力向上を図りました。また、学年団会議において、生徒の情報を共有することで、的確な指導を行えるよう努力しました。

【2-1】

主な行事

4月9日	入学式
4月15日	授業参観
4月20日	健康診断
5月27日	P T A総会
6月15日	音楽鑑賞
9月23日	体育祭(岡山ドーム)
9月26日～28日	勉強合宿
10月18日～21日	修学旅行
11月18日	爽凜祭(学習発表会)
1月19日	百人一首大会
2月1日～2日	校外活動
3月14日	義務教育修了式
3月16日～24日	海外研修 (オーストラリア)
3月23日	終業式

生徒・教職員数

■ 在籍生徒数

(平成29年5月1日現在)

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
岡山理科大学附属中学校	80	46	240	143

(単位：人)

■ 教職員数

(平成29年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員計
1	1	11	13

事務職員
1

(単位：人)

財務関係

■ 事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度 29年度 決算額	前年度 決算額
教育活動 収入	学生生徒等納付金収入	75,750	82,951
	経常費等補助金	62,705	62,528
	その他収入	25,471	3,110
	計	163,926	148,589
	教育活動 支出	人件費	145,908
教育研究経費		24,432	28,094
管理経費		13,665	15,762
その他支出		9	0
計		184,014	198,024
教育活動収支差額		△20,088	△49,436
教 活 外	収 受 取 利 息 等	0	0
	支 借 入 金 利 息 等	0	0
	教育活動外収支差額	0	0
経常収支差額		△20,087	△49,435
特 別	収 資 産 売 却 差 額 等	0	0
	支 資 産 処 分 差 額 等	0	2
	特別収支差額	0	△2
基本金組入前収支差額		△20,087	△49,437
基本金組入額合計		△2,322	0
当年度収支差額		△22,409	△49,437

■ 施設設備計画

(単位：千円)

事業名	金額
中学校LAN整備	1,944